

ひと足早く春を運んでくる

500mlペットボトルで  
チューリップの  
水耕栽培をしよう！

手間がかからず  
お手軽で  
失敗がない

### 1、はじめに

厳しい木枯らしの季節は遠ざかり、だんだんと春の兆しが近づいてくる。

梅はぼちぼちと咲き始めたが、桜の花にはまだ早い。

そんな季節に、一足先に春の装いを見せる、**室内のチューリップ**。

**チューリップを室内で栽培するなんて、汚いし面倒だって？**

いいえ、そんなことはありません。

どこにでもあるお茶やジュースの500mlペットボトルで、チューリップを栽培しましょう。

水耕栽培の技術で、失敗がなく誰でも簡単に出来ます。

土を使わず汚れないので、室内に置いて成長を観察しましょう。

室内は暖かいので、外のチューリップが開くよりも**ひと月ほど早く春を運んできます**。

ひと足先に、春を感じる事ができる、チューリップの水耕栽培です。

材料は、近所のお店で手に入るものばかり。

さあ、はじめましょう。

ただし植え込みの、季節に限られます。関東なら、**11月ごろ**が良いでしょう。

## 2、材料をそろえましょう。

### (1) 500mlのペットボトルの空き瓶

球根1個に1本のペットボトルが必要です。

丸型でも角型でもOK。お茶でもコーラでもジュースでもOK。軽く水洗いをしましょう。

### (2) 培養液を吸い上げるための布

右のような100円ショップで売っているレーヨン製の不織布のふきんが吸水性が良いので、お勧めです。PVA製は溶けてしまうので適しません。



### (3) ストロー

培養液を補充するための通路になります。太目のものが使いやすい。

### (4) 肥料



球根の養分だけでも花は咲くので水でもOKですが、来年も使うために、栄養を与えましょう。

水耕栽培専用の液肥もありますが、入手しにくいので、ここでは、近くのDIYセンターで手に入りやすい、微粉末を紹介します。

商品名：微粉HYPONeX

微粉、すなわち粉末であることを確認してください。店頭では、液体タイプのHYPONeXをたくさん売っていますが、必ず粉末の『微粉HYPONeX』を選んでください。

容量は、120グラムから、200g、500g、1500g、5kgと各種ありますが、チューリップの栽培だけなら、少量しか使わないので、小さいので間に合います。

### (5) パーム用土（水で増える用土）

球根が動かないように安定させるために使います。

パーム用土は、天然ヤシの繊維を使っており、

粒子が粗いので、爪の中に入り込みません。

土ではないので、使用後に生ゴミとして捨てることができます。



## 材料の2

---

### (6) 細口のじょうごか水差し

ストローを通して、培養液を注入するので、同じくらいの太さが望ましい。

### (7) チューリップの球根

ホームセンターや園芸店で入手できます。  
昨年の残りがあればそれを使ってもかまいません。

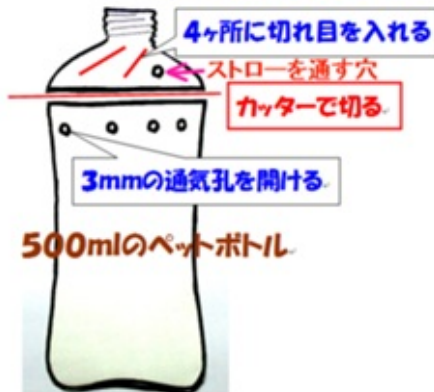
さあ、作りましょう

### 3、さあ、作りましょう。

(1) 最初に、パーム用土を水に浸しておきます。

・説明書にしたがって、水を吸わせて、十分に膨らませておきます。後で使います。

(2) 500mlペットボトルのネジ口近くに4ヶ所に切れ目を入れる。



・左の図の、赤い線のように4ヶ所に切れ目を入れます。  
この切れ目を、スリットと呼ぶことにします。

(3) 通気孔とストローの穴を開ける。

・半田ごてか、焼け火箸（死語か？）で、通気孔を4個くらいとストローを通す穴を1個開けます。

・穴の大きさは、3ミリ程度ですが、少し大きくても構いません。

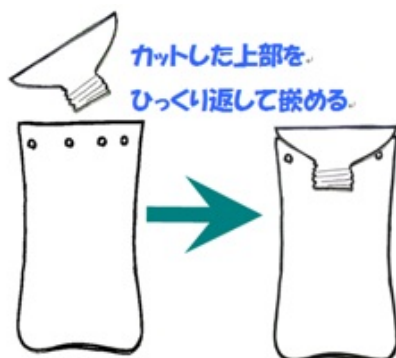
・穴の位置は、上の図を参考にして、似たような位置であれば、ずれても構いません

(4) 肩口から切断する。

・上の図を参考にして、カッターかはさみで2つに切り分けます。

(5) ネジ口を反転させる。

・左の図のように、切断したネジ口を反転して、本体の上に載せます。



最後は、粘着テープで固定しますが、今は、載せるだけです。



(6) 不織布をカットして4本のテープを作ります。

・右の写真のように、3センチ幅で長さ20センチくらいにカットします。

（寸法は正確でなくても構いません）

## 作りましょう 2

### (7) 不織布テープを切れ目に挟み込みます。



- ・ 4ヶ所のスリットに、不織布テープを挟み込みます。
  - ・ 上部を4センチほど出して、下方にぶら下げるようにします。
- 長すぎた分は、もしやもしやと折り込んでしまいます。
- ・ 培養液を吸い上げる目的なので、寸法にはあまりこだわりません。

### (8) 上に載せたネジ口の部分と本体をビニール粘着テープで固定します。

- ・ セロテープは水でふやけてしまうので、電気工事のビニルテープが使いやすいです。

### (9) ストローを差し込みます。

- ・ ストローを10センチくらいに切って、上から差し込みます。
- ・ 上に2センチほど飛び出す位置で固定させます。

### (10) 球根を載せます。



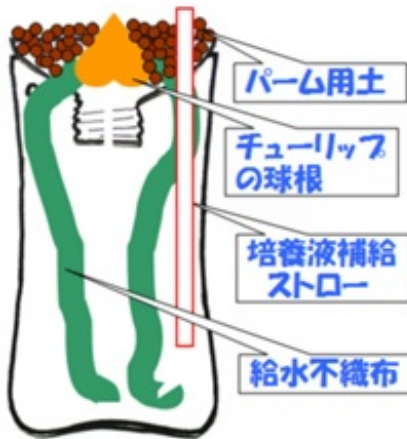
- ・ 球根を中央に載せて、不織布で包みこんで、安定させます。
  - ・ 球根の上下を間違えないでください。
  - ・ とんがりがある方が上です。
- (筆者は、上下を間違えて失敗した経験があります) >\_<;

### (11) パーム用土をかぶせます。

- ・ あらかじめ水に浸して膨潤させておいたパーム用土をかぶせます。
- ・ 球根が安定して動かないように、少し押し込むようにして固めます。
- ・ スプーンを使うと作業がしやすいです。

## 作りましょう 3

- ・ここまでの作業で、内部構造は、こんな風になっているはずです。



### (1 2) 本体にアルミホイルを巻きつけます。

- ・培養液に光が当たると、緑色の藻が発生して汚らしくなるので、アルミホイルで、遮光します。
- ・料理用のアルミホイルを巻きつけて、粘着テープで、固定します。
- ・通気孔は、アルミホイルの上から、箸を突き刺すなどして開通させます。
- ・アルミホイルの上から、ギフトラッピング用の、おしゃれなテープを巻きつけると、可愛らしくなります。

### (1 3) 培養液を注入します。

- ・微粉ハイポネックスを溶かした培養液を、ストローを通して注入します。
- ・細口の水差しかじょうごを使います。注射器があればそれも使えます。
- ・通気孔から少しあふれるまで入れてください。  
(満量の重さを量っておくと、後日の水量管理に役立ちます)
- ・培養液は、微粉ハイポネックスの説明書にしたがって、水に溶かして作っておきます。
- ・小さな計量スプーンが付いているので、1リットルか2リットルのペットボトルを使うと、作りやすいです。

#### 4、じっくり育てましょう。

- ・置く場所は、室内で、陽が当たる窓際などが適しています。
- ・重さで判断して、培養液が半分ほどまで減ったら、ストローから補充します。  
(冬場なら、2週間に一度くらいの頻度です)
- ・培養液の補充以外に、手間をかけることはありません。
- ・室内に置けば、1月になると下ののように芽が出てきます。



- ・芽が出てから、2ヶ月ほどで花が咲きます。
- ・花が咲いてから、アルミ箔を剥がしてみると、右の写真のように根が成長しています。



#### 5、球根の処置は研究中です。

- ・花がしおれたら、手でもぎ取ります。
- ・その後の球根の管理は研究中です。
- ・上手く分球が出来たら、改訂版を発行します。



500ml ペットボトルでチューリップの水耕栽培をしよう！

<http://p.booklog.jp/book/47472>

著者：北上大

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kkdai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47472>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47472>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.